

チチコグサ (父子草)

名前の意味^{いみ}：ハハコグサ (母子草) に対して、よく似ているが、違うので、そのように名付けられた。

分類：双子葉類、キク科、ハハコグサ属

(キク科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：ヒマワリ、フキ、レタス、ゴボウ)

好きな場所：日当たりのよい芝地、草原

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生^{じせい})

特徴：地面を丸く覆^{おお}う細長い葉、裏は白い、花は茶色で茎^{くき}の上にまとまってつく。

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数^{ごうべん}：合弁、5裂^{れつ} (小さくてよく見えない)

花の時期：4 - 5月

食べ方：食べられない

見分け方：ハハコグサは、葉の両面^{りょうめん}がやや白く、花は黄色。チチコグサモドキには、茎^{くき}にたくさんの葉がつく。

見つけやすさ ★★★

見分けやすさ ★★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)